

植物－1 タブノキ

クスノキ科の常緑高木で日本の照葉樹林帯に広く分布する樹木です。潮風にも強い^{どじょう}ため、宮崎県では、海岸沿いの適度に湿った^{どじょう}土壤が発達した平野を中心に、多くの亜熱帯地方の植物とともに森を作ります。葉は長さ8～15cm、厚い革質で表面に光沢^{こうたく}があり、枝先に集まってつきます。裏面は灰白色、若葉は紅色をしています。花期は5～6月で新枝のわきに黄緑色の小さな両性花をつけます。果実は直径1cm程で、7～8月頃に黒紫色に熟します。材はかたく腐りにくいため、土台板などの建築材や枕木、彫刻材などに広く用いられます。線香の材料にもなり、材の腐ったものは虫よけに使います。また、高千穂町下野には、「冬のタブの枝先の枯れが多いと飢饉になる」という天候・災害占いの^{でんしょう}伝承があります。

